

5日、日本生協連会長山下俊史が福島を訪れました。開店前、コープふくしまの職員のみなさんを激励。その後県庁に出向き、日本生協連の義捐金を県に贈呈しました。

八島理事長ご挨拶

冒頭、野中俊吉専務理事から「日本生協連の支援のおかげで、『コープふくしまの店には東京より商品がある』とさえ言われる売場作りができています」とのご紹介をいただき、続いて八島博正理事長から以下のご挨拶がありました。

「生協の理念である『一人は万人のために、万人は一人のために』を、今こそ発揮すべきとき。日本人の助け合いが世界に感銘を与えている。それを体現しているのが、私たち生協の仲間であり、生協の組織構造。12年間努力してきた、ようやく芽が出ようとするときの災害だが、これに負けない。あと1～2年は掛かるだろうが、苦労を分かち合い、全国の支援に応えていきたい。みなさんの活躍にお礼を申し上げるとともに、これからもみなさんとともにやっていくことをお誓いする」



山下会長挨拶

東日本大震災の被災に心からお見舞いを申し上げます。全国の生協とも手を携え、被災地の生協が被災者の救援を最優先に奮闘されてきたことに敬意を表します。

私たちも全国の支援が被災地に集まるように努力してまいりました。その分首都圏が品薄になり、買い急ぎも加わって、首都圏の品薄はまだ続いております。ようやく被災者のみなさんに滞りなく物資が届くようになりました。

これからは、生活協同組合の本来の事業(店舗・宅配事業)を復興して、そのことを通して被災者の生活を支援する段階だと持っております。方木田店が品薄の中、立派な売場を作っておられることに感心しました。牛乳の品そろえを褒めましたら、売場の職員はこうち生協の方でした。全国からのご支援、ありがとうございます。

これからも、全国の生協と日本生協連は、被災地・福島、宮城、岩手の生協の復興を支援し続けます。そのことをお約束いたします。野中専務も言っておられるように、みなさんはぜひ被災者の目となり、耳となり、声となって、被災者の心に届くように生活支援を全力を挙げてやっていただきたい。そのなかで全国の生協や日本生協連への要望がありましたら、これまで以上に届けていただきたい。

私たちも被災地、被災民のみなさん、当地の生協の事業復興の支援を、全力を挙げてやってまいります。とりわけ福島は、震災、津波、原発、風評被害の四重苦と言われております。根拠のない風評を正し、科学的な知見に基づいた判断により、冷静な消費行動が取られるように働きかけてまいります。

私たちは福島県産品を買い支えたいと思っております。放射線値についても、系統的に測定し、総合的に判断される仕組みを要望してまいります。

みなさんの合言葉「がんばっぺ」を私どもの合言葉にもして、支援してまいります。



集会は、熊谷純一コープあいづ理事長の音頭による「がんばろう」三唱で締めくくられました。



義捐金贈呈



集会後、県庁に出向き、日本生協連からの義捐金1,000万円を、第一次分として、県に贈呈しました(上写真左が福島県保健福祉部部長・阿久津文作氏、右が山下日本生協連会長)。

福島県保健福祉部部参与兼社会福祉課長安部光世氏(中写真左)、生活環境部消費生活課課長大内幸子氏(下写真左)とも懇談しました。

県からは、被災民支援への生協のいち早い対応に感謝の言葉をいただくとともに、福島県産品に対する風評被害克服への生協の尽力について期待が示されました。

